

# 成果報告書

【令和4年度教育改革推進事業経費】 b. 全学プロジェクト

|               |  |         |          |
|---------------|--|---------|----------|
| 所属部局          | 観光学部   | 代表者氏名   | 木川剛志     |
| 事項名           | 学生制作のドキュメンタリー映像の発表の場をつくる<br>( (仮) 紀の国ドキュメンタリー映画祭の開催) |         |          |
| 当初計画に対する目標達成率 | 110%   | 事業の終了時期 | 令和5年3月   |
| 予算配分総額        | 425,000円   | 経費使用総額  | 425,000円 |

【事業の成果】※具体的に記入してください。

本事業では「ドキュメンタリー映画」の持つポテンシャルを活かし、それを学生教育に展開することに主旨がある。不確実な時代において求められることは考えることである。その考えるとは、答えを探すことではなく、答えをつくることである。現在、日本においては、民主主義を是とする諸外国と比較すると、ドキュメンタリー映画の位置付けは十分なものとは言えない。その中でも、全国の大学では社会学などの分野において、学生たちにドキュメンタリー映画を制作させてきた。本事業では、このような全国の大学で醸成されているドキュメンタリー映画制作の空気を、本学の学生たちに見せることを目的としており、それについては達成した。

観光学部の学生たちは令和4年4月より、テレビ和歌山での番組制作を担当することとなった。そして5本のドキュメンタリー番組を制作している。そのような中、学生たちが主となり、全国のドキュメンタリー映画を制作している大学にコンタクトを取り、9本の応募を受けた。上智大学や関西大学、関西学院大学、大阪芸術大学、摂南大学、甲南女子大学からの応募であった。本学の学生も1本、制作をした。

以上の上映作品10本をもって、2023年2月4日に和歌山県立図書館メディアアートホールにおいて「第1回きのくに学生ドキュメンタリー映画祭」を開催することができた。この映画祭では上映後に20-30分の討論時間を置き、そこでは学生や一般参加者も参加した建設的活発な議論が展開できた。また本学の学生たちも作品を作り、同じ時代の表現者として、他の大学生との活発な交流が進んだようであった。

そして、事後学習として、現在、3月末を期限に、新たなドキュメンタリー映画作品を学生たちは制作中である。

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

本課題で目標とした点は1. 映像祭の開催、2. 本学の学生たちに対する教育効果、3. 次年度以降の展開の模索であった。

1. の映画祭の開催については、予想を上回る応募があり、また高熱のために休んだ2組があったが、参加した他大学の学生たちが、このような映画祭が全国でもないのでは、大変ありがたいと、とても評判がよかったことである。引率で来た他大学の教員たちも、来年も出しますのでよろしくお願ひします、と感謝された。これは本学の学生たちにとっても大きなモチベーションにつながっている。

そして、2. の教育効果であるが、今回、はじめの企画構想は教員が提案したが、その後、映像募集、プログラムの策定、当日運営に学生たちが主体的に関わることによって、今までにはない学生の行動の積極性が見られた。これは応募作品が同年代の学生であることも大きかったのではないかと思う。そして苦戦はしていたが、実際にドキュメンタリー映画を制作し、それを上映することができたこと。これは学生たちに大きな成果となったのでは、と考える。発表の場があってこそ、制作も可能となることがあらためてわかった。

3. の次年度以降の展開であるが、これが予想を大きく上回ることとなった。企画構想の段階で、社会人と子供落語を行う、わかやま楽落会の方から、面白いということで、参加希望があった。そして、共催団体として、当日の会場費の一部を負担してくれるなど、初年度から社会との連携が進んだ。さらに、来年度に向けて、和歌山県の事業に共同で申請するなど、想像を超えた展開となっている。

以上から、110%と判断した。

#### 【今後の展望等】

##### ○本事業の発展性

本事業は、ここまで述べたように、社会からのニーズに応じた企画となっていた。そのため、参加者の方も非常に満足した映像祭となった。不確実な時代において、このような議論を行うことは非常に重要であるが、それをどのように展開するか、が難しい点は多々ある。それにおいてはドキュメンタリー映画を鑑賞し、それを踏まえた議論を行う学びは、大学教育において発展性があると考ええる。

##### ○改善すべき事項

本事業は最終的には学生たちの主体性によって展開されたところは多かったが、最初の設定において、時期の問題もあり、教員の関与が強かったように感じる。また、当日、20分程度の議論の時間であったが、その時間は足りないように感じた。より効果的なものとするために、微細な点から検討してみたい。

##### ○実施成果の教育課程への改革・改善への提案及び今後の予定

観光学部の教育課程において、映像制作の時間は十分ではないがあった。しかし、これまでは受け身的な映像であったが、このような時代においてはよりドキュメンタリー要素の強い映像制作を行い、他大学や社会人との交流事業に展開することが重要ではないか、と考える。

次年度においては、社会との共同、協賛によって映画祭を再び開催し、自走した祭として定着させていきたい。

##### ○その他特筆すべき事項

映画祭については、すでに公式ホームページを立ち上げた。このホームページを軸に今後展開させたい。

きのくに学生ドキュメンタリー映画祭

<https://docfes.japan.com>